第２回　歴史民俗資料館運営協議会　議事録

令和 5 年 10 月 16 日（月）
午後 14 時 30 分から
原村中央公民館 講義室

出席
委員(6 名)
鎌田晴之、平出敏廣、中村浩平、
田中宏和、時田源夫、根岸芳郎

八ヶ岳美術館(2 名)
小泉館長、塚崎学芸員

事務局(4 名)
古清水教育長、五味課長、
佐々木係長、松森

欠席
なし

１．　開　　会　　生涯学習課長

２．　教育長挨拶　　古清水教育長

３．　議　　事
（１）令和 5 年度上半期事業報告

令和 5 年度上半期事業について八ヶ岳美術館報告

・春「岩波其残と画友」4/1-6/11（72 日間）
・夏「酒井慶二郎 花は無言で語ります」6/17-9/3（79 日間）
・秋「縄文前期の大祭祀場 阿久」9/9-1/8（116 日間/現在開催中）
・上半期(4-9 月)有料入館者数 4,430 人（昨年対比 102%）
・減免入館者数含む総入館者数 5,188 人（昨年対比 103%）
・総入館料 2,164,050 円（昨年対比 103%）
・売店収入 1,002,952 円（昨年対比 134%）
・上半期総収入［総入館料＋売店収入+協賛金等］3,259,210 円（昨年対比 105%）

・春季 其残展
集客が非常に好調、新聞 TV 等メディアの取上げも多く話題を呼んだ
・夏季 酒井慶二郎展
集客数は落ち込むが、作家自身美術館で個展を開くのは初ということもあり、諏訪地域の新人発掘的な意味合いでは良い企画展だった
・秋季 阿久展
大変話題を呼んでおり、今後の集客にも力を入れていく

質疑応答

委員長：其残展は随分新聞等に取上げられたが、やはり入館に反響はあったか。

美術館：あった。最も反響が大きかったのは NHK の紹介番組。紙面では長野日報や信毎、専門家による其残の論評記事。その余波もあり、現在でも学芸員や地域おこし協力隊員は SNS 等含め企画展広報に力を入れて頑張っている。

委員長：それは非常に頼もしい。協賛金 8 万円というのは、其残展に係るものか。

美術館：協賛 3 社のうちスワテックが広告代として出してくれるもので、あとは現金でいただいている。

委員長：いずれにしてもこの 3 社ということか。

美術館：年間の協賛金であるためまだ全額ではなく、現時点では信金の 8 万円が入っているだけ。

委員長：6 月に計上してあるものについては。

美術館：支払いのタイミングは様々で、スワテックの場合には纏めて 2 回に分けて払うといった事情があり、年間通して総額 26 万円となる。

委員長：なるほど。もう 1 点、売店収入について前年度比 134%となっているが、企画展との兼合い等、売れ筋は決まっているのか。

美術館：金額で言えば 1,200 円台、ショール等が最も手頃。他に館で制作した一筆箋等、300～ 500 円程度のワンコイン以下で買える物がよく売れる。1,000 円以上では 1,200 円が上限で、それ以上の値段では作家作品、8,000～ 12,000 円といった値段の物は年に何度かといった頻度。

委員長：実際売店収入というのは、力を入れる意味があるのか、とりあえず恰好をつければいいという程度か。

美術館：八ヶ岳美術館にとっては一番の収入源で、力を入れるべき分野。入館料が一番の土台だが、爆発的に跳ね上がることはあまりない。売店収入で総収入が左右されるため、非常に大切。

A 委員：上半期の有料入館者数について、過去平均と比べ増えており、よく努力されているとは思う。そうした中で、条例には「村内の小中学生は無料」とあるが、この人数について、資料表の中でわかるか。

美術館：有料入館者数は大人小人別に数字が出ているが、減免入館者数は大人小人の合計数で出しているためわからない。村内小中学生はこの中に含まれており、また県外・郡外の子どもは有料入館者数小人の中に入っている。

A 委員：わかりました。固い話だが、本来「無料」と「減免」は別のもの。「無料」というのは最初からお金がかからないが、「減免」というのは、本来お金がかかるが特別に免じた、全額を免じた人たち、ということになる。この場合の「減免」というのは、「無料入館者」と理解して良いか。

美術館：はい。減免はその解釈。

A 委員：わかりました。これは委員としての希望だが、条例において美術館は「教育的施設」ということで、広ければ 6 市町村、狭ければ村内の小中学生が授業で年 2 回程度美術館を訪問して授業を受けるようなことになれば、教育施設として活用という意味でも非常に良いと思うが、その辺りはどうか。

教育長：昨年の学習を紹介させていただくと、中学校 1 学年の子どもたちが 5 月に原村のことを知る学習ということで美術館を~~訪れ~~見学、また学芸員から説明を受けるという機会を設けている。3 月には中学 3 年生がブロンズ像制作・除幕式を行い、その際にも館の見学、また館長から説明をいただいた。加えて総合的学習の時間の中で調べてみたいといった際には、館を訪れ、減免無料で入館・学習させていただく、というような状況。

美術館：館としてはこうした活動が大きな柱となっており、長年続いている。子どもたちが館へ来て解説を聞く一方で、アウトリーチ事業として、学芸員が出張して、原小学校や原中の美術クラブ等で授業や学校活動に協力している。村外の学生たちが見学に訪れる機会もあり、過去には富士見町が町の補助でバスをチャーターして来たこともあった。公的なバスでやって来る、ということが保証されると、館はとてもありがたい。

A 委員：よくわかった。それにしてもこの無料入館者数が少ないかなとどうしても感じるので、もっと積極的に村内の小中学校の方にアピールした方が良いと思う。

美術館：はい。

委員長：リモートの B 委員、（１）の件については。

B 委員：中村委員に重なるが、村の補助券の使用、扱いはどれくらいになっているか。

美術館：上半期は 4,500 円。8 月に 2,000 円、9 月に 2,500 円。

B 委員：少ないように感じる。

美術館：前年度はとても多かったが。この上半期は、文化園ではとても多かったと聞いている。美術館では振るわなかった。

（２）令和 6 年度企画展について

令和 6 年度企画展について八ヶ岳美術館説明

・春「没後 40 年 八ヶ岳美術館・村野藤吾の世界 建築展」4/1-6/30（91 日間）
村野藤吾没後 40 周年記念、また近年村野研究者の逝去や退官が相次ぎ、研究分野での時代の変わり目という意味でも重要なタイミングで行う企画展。村野と八ヶ岳美術館に係るデザイン概要や設計図、写真等貴重な資料を展示する、基本的な建築の研究ができるような資料をまず見せるという点、また映像と PC を使いフォトグラメトリ、建築の 3D スキャン映像と計図と組み合わせてデジタル画像や AR で館の模型を体験できる展示企画を進めている。地域おこし協力隊・内田さんコーディネートにより、建築 3D スキャンを行う会社と企画を進めている。またこの場を借りて、40 年間の美術館建物の写真を撮っている方がいればぜひ提供をお願いしたい。

・夏「画文集出版記念展 片田好美 森と生きる」7/6-9/8（65 日間）

水彩画文集「森と生きる」1～3 を 2023 年までに 3 年かけ刊行したことを記念し、画文集に掲載された作品を中心とした展示を開催。今回で作家最後の展示になる可能性もあるかもしれない企画展。

・秋「第 10 回 あなたが選ぶ信州の裂織展」9/14-12/8（86 日間）
2006 年開始から隔年 10 回目、20 年目の総決算となる展示。作家数の減少・高齢化が進み、この裂織展も今回を区切りとした上で、今後どう継承・継続していくかを考えていく必要がある。

・冬「八ヶ岳山麓に広がる JOMON 世界」12/14-3/23（94 日間）
阿久遺跡の国史跡指定（1979 年 7 月 2 日）から 45 周年記念という節目にあたり、様々なイベントで縄文世界展を盛り上げたい。県宝 18 点の一堂展示と組み合わせ、ここに関わるような内容企画を行う。

質疑応答

C 委員：村野藤吾の世界について、「没後 40 年」が最大のテーマで、ここに焦点を当てて強く打ち出していくということか。過去にも館として取り上げたことがある中で、今回ここで出してきたという意味は何か、今までと何が違うのか。また一方で、所謂デジタルの、VR 等バーチャルなものを使うというのは非常に革新的で、村野藤吾の世界に引っ掛けるというのは少し違うかもしれないが、新しい取組みとして非常に面白い。村野藤吾をなぜこの来年取り上げるのかという点については、40 年ということに最大の力点が置かれて取り上げる、という理解で良いか。

美術館：力点は置いているが、あくまで「節目の年」という捉え方で、その一点を深掘りするというものではない。取り上げる最大の動機は、再来年屋根と側壁の工事を行う予定があること。綺麗になれば当然現状とは外観も変わるため、その前に現状を焼き付けておきたい。そういった意味でも節目という点と、主立った研究者が亡くなったり退官したり、そういった情勢変化もあり、ここでその陣容を固めておいて、講師に呼んで話を聞いておいたり、その研究者との繋がりを深めておきたい。その際には遺族の方も呼んで、村野家の著作権を持っている人たちも呼んで、やっていきたいというような、そういった構想を考えている。

C 委員：であれば、その部分をしっかりともっと謳わなくては意味がわからない。なぜ村野藤吾を来年やるのか、というところを、もう少し明確にはっきりと謳っていかないと、マスコミも取り上げにくいなと。

美術館：はい。

C 委員：そういうことを説明することで、原村が村野藤吾を大切にしている、ということのアピールにも繋がる。要するに、村に住んでいる人たちは、「ああ、また村野藤吾ね。今までと何が違うの？」というところ。今までとの違いを明確に出していかないと、客足は伸びない。その辺りの差別化というか、なぜ今回村野藤吾なんだ、ということをどう打ち出してくるかということが重要。

美術館：はい。

C 委員：美術館として企画展を大切にする意味や館の存続といった点もわかるが、今回純粋に、お客さんがたくさん来てくれるためにはどうしたらいいかということを考えると、その美術館の思いは思いだが、それを聞いてお客さんが足を運んでくれるかというと、私は運ばないだろうと思う。

美術館：はい。

C 委員：それから次の片田好美さんは、今回初めてか。前にもお呼びしたことがあるのか。

美術館：以前にも開催があった。

C 委員：今回はそこと何が違うのか。片田さんの今回の企画展は、今までの片田さんの水彩画展とどう違うのか。こちらの企画展についても、その差異が知りたい。この質問も先ほどと同様、「ああ片田さんね。前に見たわ。」という人に、今回来てもらうためには、何が片田さんの展覧会として、美術館としてはこれを、というものを示してもらわないと、そこの違いがわからない。例えばこれを、片田さんの最後の企画展になります、ということで、「片田好美、最後の展覧会」と打ち出すのならまだ違う。それならわかるが、「たぶん最後です」など曖昧な言い方では、あまりにインパクトがなさすぎるというか、村民は「よし、行こう！」とはならないと思うが。決して片田さんを取り上げないでくださいと言っているわけではない。片田さんを取り上げるならば、「こういうことで片田さんなんですよ！」「だから皆さん、どうぞ足を運んでください！」というような。そういう当然の仕掛けが必要かな、と思う。最後の裂織展も同じ。ただこれは館長が仰ったように、作家数や高齢化、今後の継続等、何とも難しい点もわかるが、やはり「ああ、いつもやってるあれね。」と思われてしまうところでは、村民は足を運ばない。企画展の説明はわかったが、ただ一般の人が聞いたときに、「お、今回じゃあちょっと行ってみるか」と思ってくれるかというと、違う。存在意義とかこの展覧会の価値というものはわかるけれど、それでお客さんが増えるかというところは、弱い。その辺りの仕掛け、例えば作家さんなりが、この日とこの日はきちんとトークイベントを開きますとか、一般の方にもちゃんと説明をいたしますとか、実際に作家さんがそこで織っている様子ですとか描いている様子を見ることができますとか、何かプラス、「へー、こうしてるんだ」というようなものがあれば、足を運んでもらえる可能性もあるかもしれない。あるいは学芸員が常駐して、具体的にこの時間とは言わないけれど、いつでも捕まえて話を聞くことができますよ、というような、ゲリラ説明ではないけれど、普段、「今までやっていたものと違う」もの、何かわくわくする仕掛けのようなものがあったら、と思うが、その辺りはどうか。

美術館：仰るとおりです。

委員長：改めてまた美術館の方で練っていく、貴重な意見だと思うが。

美術館：はい。

委員長：ワークショップ等、何かいろんな仕掛けを考えているとは思うが、今の時点で答えられるようなものがあれば。

美術館：仰るとおりで、キャッチコピーが、コンセプトがまずないという点。大変為になる、貴重なご意見。館内で十分討議をさせていただきたい。

C 委員：純粋に、普通の人が聞いたときに、「お、行こうか。」と思うかどうかのところ。

美術館：はい。そうですね。

C 委員：だから、「ああ、ちょっと面白そうだよね。」、「行ってみようかな。」という。そう思わせるものが、欲しいかなと思う。

美術館：はい。館でしっかり議論させていただく。

事務局：今 4 つの企画展を美術館の方で計画してくれているので、今年度も先ほども話に出たように、「はらむら塾」をまたここに被せていくような形で、それぞれの内容について講演会的なものを入れて、公民館の方もバックアップできるような態勢で進めていく。

委員長：今年も公民館と一緒に。

事務局：例年に引き続き、今年度も同じような形でやっていければいいなと、いうところは、公民館の方でも願っているところなので、一緒にやっていければ。

D 委員：八ヶ岳山麓の縄文世界についても、同様に考えるべきと思う。というのは、今までやってきた内容と、今回やる内容と、たぶん同じになるのではないかと。田中委員の言うような形でやっていただきたい。阿久遺跡と尖石遺跡や井戸尻、そういった内容の違いを比較できるような形で、それぞれの館と協力しながら何かできたら良いと思うので、ぜひそういった形でお願いしたい。

美術館：まだ構想段階のため言わなかったが、今回縄文前期、阿久の企画展を行った。次の企画展的には、今まで常設で展示している中期をもう 1 回、と考えている。中期に重きを置いて、近隣からの借用も含めて展示を行う他、イベントや講演会もバラエティに富んだものをやってみたい。例えばつい最近では、ご相談もしておらず決まったことではないが、尖石縄文文化賞を受賞された佐々木さんの、植物考古学、という分野がある。それから美術的に美の世界から縄文の文様を捉え直す、というようないろんな方の講演会をセットして、そこで縄文人の、縄文世界の精神性のようなものを何か彷彿とさせていければいいかなと。県宝を一堂にしながら、それを中軸に置いてやれたら、というイメージではある。まだ講師交渉もしていないため構想の段階だが、また相談しながらやっていきたいと思う。

委員長：他にいかがですか。

B 委員：先ほど仰られたように、何回かやってくる中で、ああ、また同じか。というのはやはり思われるところ。確かに村野藤吾氏が八ヶ岳美術館、原村歴史民俗資料館の設計者であるというところはわかるが、もう少し視点を変えた打出し方があると思う。片田好美さんも、言ってみれば“地元の作家さん”で、何か趣向の変わったところを出してほしい。今までの部分から、例えば前回の日達れんげさんからの、被り的な部分があるのではないかと思うので、その辺りも視点を変えた打出しができるものをお願いしたい。あと説明の中に AI、VR やそういったものを使った映像または、ということがあったが、例えば 3D プリンター等を使った立体化、といった方向も考えられるか。

美術館：スキャンしたデータが 3D プリンターで打ち出しできれば、おみやげになるような小さな模型を作ったりもできるというアイデアはいただいている。もし現実化できれば、ただ問題としてデザイン等の権利関係がどうなっていくのかという、その辺りの調整が必要になってくると思う。

委員長：村野藤吾の企画展については、唐突な話で恐縮だが、ドローンで空撮した映像を流すといったことは可能か。というのも、美しい村づくりで一緒にやっていた方にドローンを自分で操る方がおり、村内のそういった方に協力してもらうのはどうかと。以前話をしたら、いいですよ、という話になったので、それをぜひ。ドローンで上から、写真では表せないような視点で見てもらう、といったことを検討していただけると。その方に話をして、実際にドローンで撮影してもらうこともできます。それと、これまでの美術館のいろんなスナップ写真を集めたいという話について、これは村内だけでなく例えば HP からいろんな発信の仕方で写真を集めることも可能ではないかと思う。要するに全国から観光でみえた方に発信すれば、たとえ写真が来なくてもそれ自体が一つの美術館の宣伝になると思う。確かに村野藤吾を取り上げるというのは、建築に興味がある人は確かに反応するだろうけども、残念ながら多くの人はそれ以上でも以下でもないのが現実。いろんな仕掛けを考えなければ駄目かなと。また裂織展の今後の方向性についても、高齢化

と担い手不足といった問題、これは裂織りに限らずいろんな場面でそういう課題があるが、この後のことについてどのように考えているか。

美術館：やりながら考えていく。企画展が始まるまでには、ある程度見通しを立てて。野中さんの体調や、それから日本裂織協会も、このイベントに寄りかかっている部分がある。裂織協会理事の方々の意見も聞いたりしながら、真剣に考えていく。館としては、何か違う形で、発展形で続けていけるようなことができればありがたいのと、信大繊維学部の教授との繋がりが切れないようにしたいという部分もある。そんなことを踏まえて、これから考えていきたいと思っている。

委員長：今やっている阿久遺跡の展覧会、来年も予定しているようだが、やっと面白くなってきたという印象。常設展はとにかく、ああいった展示の説明文というのは、字数が少ないから仕方ないのかもしれないが、学術用語を平気で使って、「わかるか？」みたいな表現しかないと。今回は比較的理解しやすい説明文が並んでおり、とても面白かった。展示の仕方とかそういったものは私も専門性がないので、とにかく観客として、見るにはどうかという視点しかないが。

C 委員：今の意見に意を強くして、キャプション、説明文について。やはり読みにくいというのか、フォントも含めて、小さい。傍に行ってこう見ないと見えない。何のために使っているのか？という、先ほどの専門用語ではないが、見る人の立場に立つと、「これはこういうことだ」ということをわかりやすく、読みやすい大きさのものを掲げてほしい。それから、やはり疲れると少し座って見たい。利用者さんの立場に立つと、時には座ってゆっくり見られるような、そういう利用者主体の展示方法や、巡回、鑑賞するためのいろいろな配慮が、可能ならば欲しい。それから学芸員が外へ出て行って子どもたちにいろんな指導をしたり云々という事業、新聞記事も見て素晴らしいと思ったところだが、逆に小学校の子どもたちの作品を美術館に飾る、“美術館で美術展”のような、学校ではなく美術館に子どもの作品が飾られる、という逆の形はどうか。常設展示してあるものをどこへ片付けるか等、いろんな課題があると思うが。中学校の美術部の作品でもよいが、学校に飾るのと美術館というところに飾られるのでは、やはり心持ちが違うかなと思う。そういった美術館を貸し出すというか、子どもの作品を八ヶ岳美術館に、一週間や期間限定でもいいから子ども美術館になりました、というような、外へ出ていく以外にも美術館に抱き込んでくる、呼び寄せていくような企画を作れば面白いかなと。他にも、昼間の美術館もいいがナイトミュージアム等、発想を思い切って変えてみることが必要ではないか。こういうものだと決め打ちしないで、少し形を変えてみる、見方を変えてみるというのも、考えていただけたら。

美術館：玄関先に無料で入れるエントランスホールというのがあり、「ギャラリー森」という名前を付けて、何人かやったことがある。ただ企画展作家がそこで並べる場合にはそちらを優先するが、そういうことができるのと、冬場、常設展だけのときは、第 2 室が空く場合があり、その際に子どもたちの作品展や村民の皆さんの写真展だとか、そういうことができればと思っている。ナイトミュージアムのイベントも何回か実施しており、今後も考えていけたらと思っている。

C 委員：1 回くらいやっていただけたら。

事務局：補足だが美術間の運営について、収益という面で貸館ということも以前に一度皆さんにお話があった際、委員の方から、お金を払って見てもらうということから、そこに所謂見てもらう価値のある、と言うのも変だが、お金を払って見てもらえる方に対しての美術館の展示であるべき、というご意見もいただいている。こうしたことから貸館については、また今後ご意見をいただき

ながら、どういう方向性であれば実施できるのか、そういった点も含めてまたご検討をお願いしたい。また美術館秋の企画展について、昨日 14 日土曜日、大昔調査会のイベントで、ドローンを飛ばして空から阿久遺跡を見るというものがあり、そちらの方のドローン撮影データをいただけることになっている。数分程度のものだが、美術館内で見られるようなものでお願いしており、映像上映として対応できる。

委員長：それはよかった。3 分～5 分が限度か。

事務局：映像として見ていただくものでは、それくらいが限度かと思う。

委員長：確かに、長すぎない方がいいと思う。

C 委員：貸し館というイメージはなかった。私が言った子どもの美術館というのは、子どもの作品が飾られればおじいさんおばあさんが来る、子どもは無料でそちらを有料にすればいいと。おじいさんおばあさんは、それに対して自分でお金を払ってもいいと思うだろうと。美術館に孫や子どもの作品が貼られている掲示されている、それを目的に行けば、ついでに館の展示も見る。行かない人をどうにか上げてくるというその仕掛けに、申し訳ないけど子どもの作品を使わせていただいて、子どもの方も、僕の作品があそこに飾られたことがある、という嬉しさ誇らしさが残る、その辺のことを思っただけで。

委員長：それでも、検討の余地がある。公民館でやってくださいというとことではないので。

C 委員：美術館だからいい、公民館ではなくて美術館が。

事務局：同時に県内外から一般の、身内ではない方が来られたときに、それをどうするか、というところも含めて検討しなければいけないかと。

C 委員：それは確かに。

事務局：美術へ企画展を目当てに来られたときにそういった展示があった場合どう思われるのか、といったところも含めて、もちろん住民の方に来てもらう機会としてはとてもいい考えで、その課題をどうするかという部分を検討していただければと思う。

（３）令和 5 年度美術館視察について

令和 5 年度美術館視察について事務局説明

・視察日程について、9 月下旬実施予定から 11 月上旬～12 月上旬へ変更。
・前回会議時配布の視察内容と視察先への資料、提出資料を再度事務局で精査、本日配布。
・視察先は現在 2 館を予定（朝日美術館・安曇野市豊科近代美術館）、調整中。
・事務局としては視察館について、①概要及び展示について（入館者数の推移、どのような要因で入館者が増えているのか減っているのか、企画展の数と内容、それによってどのくらいの入館者・反響があるのか、等）、②館の運営方法（直営と指定管理の 2 館を想定しており、それぞれの現状またその運営に関する経費と内訳、収入支出の内容、課題、等）視察できればと考えている。
・その他詳細は配布資料のとおり。情報提供はできる範囲のみで依頼。
・会議後候補日一覧表を各位へメール送付、日程調整にご協力をお願いしたい。
・八ヶ岳美術館収支について、7 年平均で見た事業収入、総収入として 19,730,000 円程度、総支出とし

ては21,783,065円、収支の差引きとしては2,050,925円。

・平成28年～29年度収支で赤字額が低くなった理由として、館長の再建、運営等企業努力によるもの。減少した赤字幅が翌年増加した理由として、振興公社が一般社団法人へ移行するために公益支出1800万を美術館の赤字で補填し減らしているという事情があり、基本的には公社の方から赤字額をある程度増やしてほしいということでこのまま増額になっている、という状態。

・館収入内訳（入館者収益と委託費、村から出している委託費と企画展に対する村補助金、売店収入、等）について、総収入7年平均19,872,997円、美術館独自収益（入館者収益、雑収入、売店収入を入れた額、要は村補助金等含まない額）の平均が5,263,140円、その収入に占める割合は26.5%。

・月別売上げについて、特に8月が一番のかき入れ時、12月1月2月の時期は入館者が少ないというのが現状。

・支出の内訳に（人件費、報償費等）について、基本的に大半分以上を人件費が占め、1,200万（55.3%）ほど。他に需用費（光熱水費）として灯油代、電気代等、特に4年度には56,410,851円と増額しており、エネルギー価格の高騰が主な要因。

・企画展の支出内訳について、今回3ヶ年分（令和2年～4年度）のみの提示となるが、それ以前は補助金額250万円に合わせた支出明細を提出いただいており金額は変わらないため、実際にかかった額を補助金とするようになった令和3ヶ年のみの提示とした。およその平均として4企画展で2,587,829円、260万を超えるような時期もあるが基本的にはこのくらいの金額がかかってきている。およその現状として、八ヶ岳美術館の、また他館の企画展経費がどのくらいになるかというまた目安として、参考にしていただきたい。

質疑応答

委員長：視察に関し説明いただいたが、ご質問、ご意見等。

A委員：なし。

委員長：ポイントや設問を考えていただいたが、例えば具体的に言うとこの朝日美術館は、冬季は開館しているのか。

事務局：開館している。

委員長：2館とも開館しているのか。

事務局：2館とも開館しているが、ともに定休日が月曜になっているため、月曜日を抜いた日程で調整させていただきたい。

委員長：安曇野の方は指定管理ということだが、美術館以外の例えば原村の文化園のように複数の施設をという形なのか、どういった管理で。

事務局：その点に関しても、視察館から情報提供として出していただければと思っている。

委員長：視察に関しては、他に何か事前に質問なり何なりこちらで用意しておく必要はあると思うが。

事務局：当日資料の方はむこうの方で出していただけるか、データをいただいて事務局の方で出したものを当日皆さんにお渡しするかというのは、受入れ先と今後の相談になる。可能性としては当日その場で、受入れ先での配布となる場合もある点ご了承いただきたい。

質疑応答

委員長：今の説明に何か、ご質問なりご意見なり、よろしいか。日程調整についてはぜひ、なるべく皆さんで行けるように、ご協力お願いしたい。

４．そ の 他

委員長：ではその他で何か。
事務局：なし。
委員長：委員さんの方では何か。
E 委員：この 10 月 22 日については。
事務局：すみません、10 月 22 日、令和 3 年度から今年 3 年目を迎える「元気づくり支援金」の事業といたしまして、補助金を使った最終年のイベント「縄文の深呼吸（3 回目）」を実施予定している。内容は縄文の舞、1 人芝居、また中学生吹奏楽部の演奏会、書道パフォーマンス等。現在主に学校教育以外、一般の受入れを休止している収蔵庫の見学についても、このイベントに合わせて行う予定。皆さんお時間あればぜひ、お越しいただきたい。
委員長：昨年の来場者数は。
事務局：昨年は 400 人ほど。最初の年は 500～600 人、特にコロナが明けてすぐ、というタイミングがあり、一気に来ていただいた。
委員長：なるほど。他に何か。それではこれで、会議を閉じさせていただいてよいか。
一　同：ありがとうございました。

15 時 57 分終了

【※別紙配布資料】

◎八ヶ岳美術館（原村歴史民俗資料館）
P1「令和 5 年度月別年間集計表」
P2「令和 5 年度八ヶ岳美術館展覧会年間予定」
P3-4「令和 6 年度企画展概要」
P5「令和 6 年度八ヶ岳美術館展覧会年間予定」
各企画展チラシ（令和 5 年度［春/夏/秋］）

◎原村教育委員会
P6-7「令和 5 年度原村歴史民俗資料館運営方法検討のための視察施策計画(案)」
P8「平成 28 年度～令和 4 年度美術館収支一覧・収入内訳」
P9「平成 28 年度～令和 4 年度美術館月別売り上げ一覧(7 年平均)・支出内訳」
P10「令和 2 年度～令和 4 年度企画展支出内訳」

委嘱状交付